

第6次高畠町総合計画

2019-2028

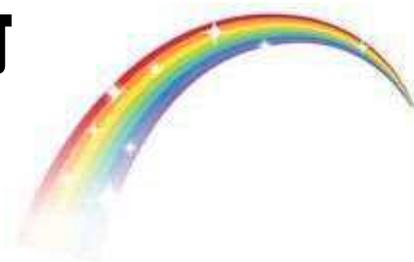
笑顔があふれ、温かいつながりが
実感できるまちをめざして

あふれる
うふふ
∞

ゆきかう
またね
∞

指標の達成状況及び
施策評価
(令和5年度)

高 畠 町



— 目 次 —



1.将来像と基本目標の体系図について……………1

2.基本計画における関連指標について……………2

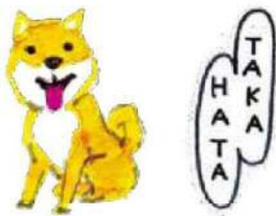
3.評価区分について……………2

4.指標の達成状況

 (1)個別指標の進捗状況……………3

 (2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況……………4

 (3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況……………5



1. 将来像と基本目標の体系図について

令和元年度を初年度とする第6次高畠町総合計画(令和元年度～10年度)において、みんなでめざす町の将来像を「ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」」と表現しました。

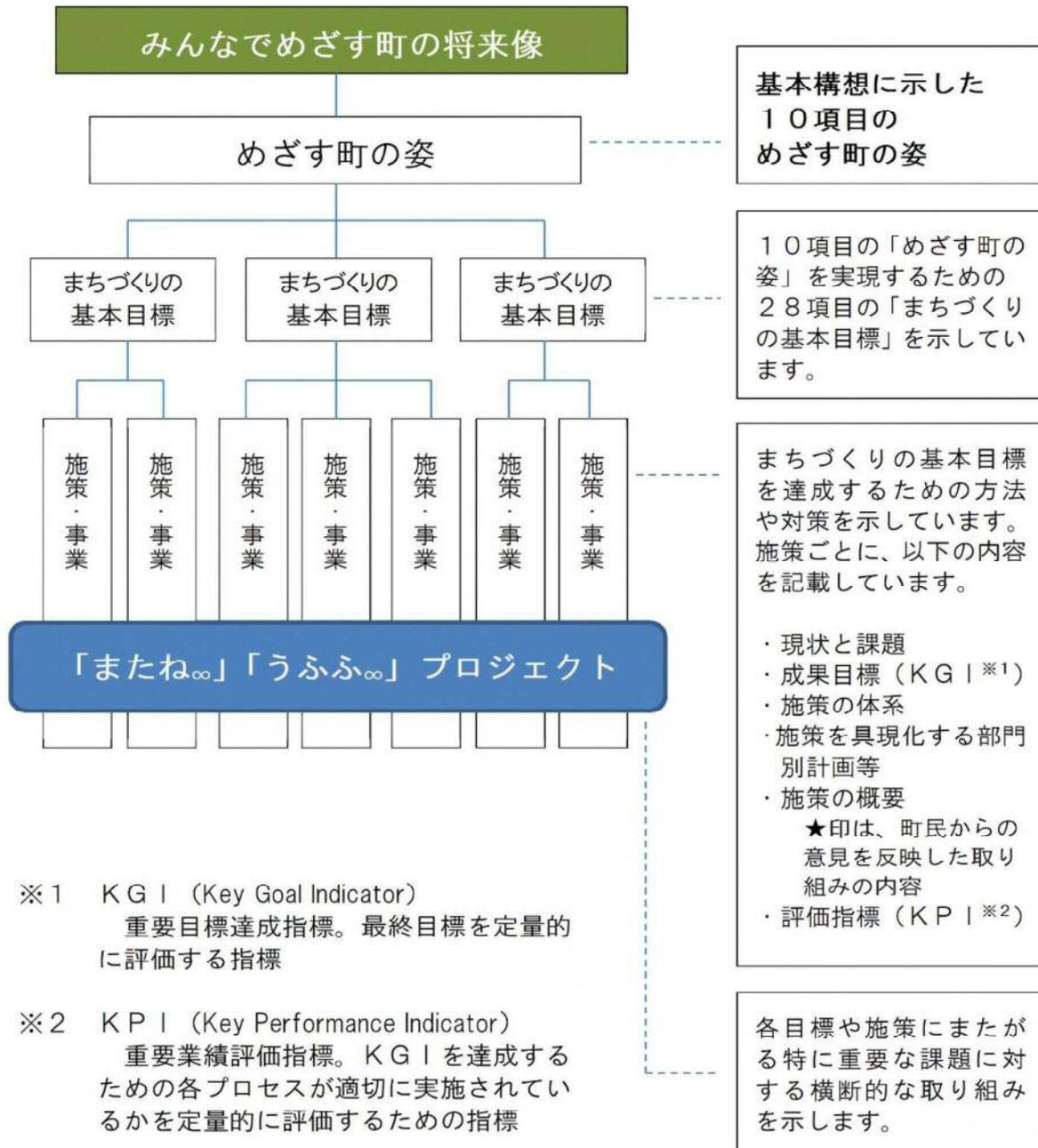
高畠町の未来において一人ひとりが『しあわせ』になることを実現するため、ライフステージごとに10項目の「めざす町の姿」を設定し、28項目の基本目標を掲げています。

将来像	共通視点	ライフステージ	めざす町の姿	まちづくりの基本目標	
ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」	楽しむ(うふふ) × つながる(またね) × 未来へつながる(∞無限大)	高畠町で暮らす人の「しあわせ」のために	「生まれてくる」ひとのために	高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する 安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える
			「育つ」ひとのために	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	子どもが健康にすくすく育つ環境を整える 子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす 課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える
			「学ぶ」ひとのために	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う 学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる 「ちがいを認めることができる人」を増やす
			「働く」ひとのために	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	若者があこがれる「かつこいい」産業を増やす 資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる
				夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	一人ひとりの生活にあった多様な働き方の選択肢を増やす 新しいビジネスを創出しやすい環境を整える
			「暮らす」ひとのために	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす 安心して快適に生活できる環境を整える みんなが地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしゅきを広げる
				一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす 地域の中でゆるやかに支え合うしゅきを広げる
			「年を重ねた」ひとのために	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	生きがいをもち人生を楽しんでいる人を増やす 住み慣れた地域で、安心して暮し続けられる環境を整える
			「次世代の」ひとのために	みんなで未来に向けたまちづくりを進めている	地域の自然や生態系を守る活動を広げる
					持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす
					歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす
					夢や志を持ち活躍する若者を増やす 協働でまちづくりを進めるための環境を整える
			「町外に暮らす」ひとのために	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	町内外に町の魅力を効果的に発信する
					高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす
					交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす
					移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす

2. 基本計画における関連指標について

28項目のまちづくりの基本目標を定め、それぞれに成果目標を設定しています。そして、目標達成のため施策を設定し、一つひとつに具体的な数値等で示した115の関連指標を設定しています。

指標は、前期計画の最終年度である令和5年度の目標値に対し、達成状況を毎年確認し、公表することとしており、今回は前期計画の最終年度である令和5年度の達成状況等について分析・評価したものです。



3. 評価区分について

5年後の目標値への達成状況に応じて、「◎」「○」「△」「×」の4段階・記号を用いて評価します。評価基準は次のとおりです。

◎⇒5年後の目標値に達成
○⇒現状値から改善 ・積み上げの数値目標の指標においては、順調に数値を伸ばしている場合 ・単年度ごとの数値をもって比較する指標においては、現状値より実績がある場合
△⇒現状値と同等 ・現状値から数値が伸びず、現状値と同等であった場合 ・年度中に評価指標を測るための調査がない場合
×⇒現状値より後退 ・様々活動や取組を行っても現状値より後退した場合

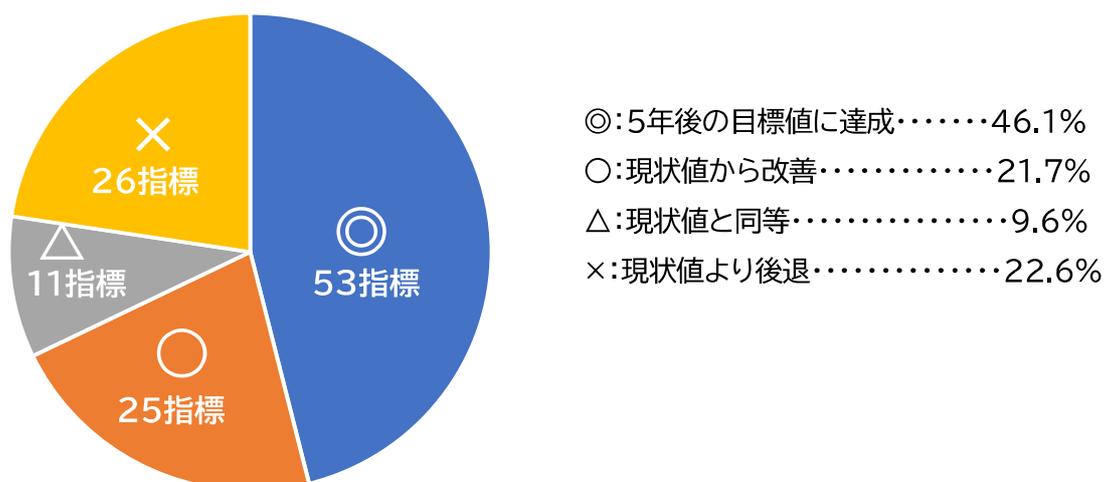
4. 指標の達成状況

(1) 個別指標の進捗状況

まちづくりの基本目標ごと合計115の評価指標を設定し評価を実施しました。

No.	めざす町の姿	まちづくりの基本目標	指標数
1	高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3
		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5
		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6
		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2
3	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5
		⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5
		⑧「ちがいを認めることができる人を増やす	2
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5
		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	6
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3
		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2
		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8
		⑮みんなが地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6
		⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2
		⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7
9	みんなが未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5
		㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4
		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2
		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4
10	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3
		㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2
		㉖高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5
		㉗交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	5
		㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3

【図1】全体的な(各指標の)達成状況の割合



「◎:5年後(10年後)の目標値に達成」した指標は、53指標で全体の46.1%、「○:現状値から改善」した指標は25指標で全体の21.7%となりました。

「△:現状値と同等」は11指標で全体の9.6%、「×:現状値より後退」は26指標で全体の22.6%となっており、現状値から改善となった以上の指標が全体の67.8%となっています。前年度(令和4年度)の同指標が65.2%でしたので、前年度と比較して若干進展した結果となりました。

(2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	指標合計	○以上	△以下	◎	○	△	×
1	高皇町で子どもを産み育てたい人が増えている	7	71.4%	28.6%	3	2	0	2
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	13	84.6%	15.4%	9	2	1	1
3	学びの場が充実して、魅力ある”高皇人”が育っている	12	41.7%	58.3%	4	1	3	4
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	11	63.6%	36.4%	2	5	0	4
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	5	80.0%	20.0%	1	3	0	1
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	16	81.3%	18.8%	7	6	1	2
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	9	44.4%	55.6%	3	1	4	1
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	9	55.6%	44.4%	2	3	1	3
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	18	77.8%	22.2%	12	2	0	4
10	高皇町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	15	66.7%	33.3%	10	0	1	4
合計		115	67.8%	32.2%	53	25	11	26

令和5年度は、「めざす町の姿」10項目中、8項目において「現状値から改善」以上が「現状値と同等」以下を上回る結果となりました。特に、No.5「夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている」については、「現状値から改善」以上が昨年度の40%から今年度は80%と大幅に改善し、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して以降、町内の経済活動全体が活発化したことが要因として挙げられます。

併せて、No.10「高皇町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている」についても、「現状値から改善」以上が昨年度の46.7%から66.7%に改善しており、やはり5類移行後に人の交流が活発になったこと、新しい生活様式の中で地方への移住定住の関心が高まっていることが要因として考えられます。

令和5年度は、No.2とNo.6が令和4年度と同様に○以上の評価が多く高水準となっており、子育て環境や生活環境における指標の達成状況が前年に引き続き順調であることがうかがえます。

進捗が停滞している項目も令和4年度と同様であり、No.3「学びの場が充実して魅力ある“高畠人”が育っている」、No.7「一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている」については、進捗が停滞または後退しています。どちらの項目もコロナ禍による参加者数の減少や場の機会を喪失した指標が多く、5類移行後も影響を大きく受け、取り組みの再開に時間を要していることが伺えます。

(3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況

まちづくりの基本目標	指標 合計	◎	○	△	×
①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3	2	0	0	1
②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4	1	2	0	1
③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5	3	0	1	1
④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6	4	2	0	0
⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2	2	0	0	0
⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5	2	1	1	1
⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5	1	0	1	3
⑧「ちがいが」を認めることができる人を増やす	2	1	0	1	0
⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5	2	1	0	2
⑩資源や人のつながりで、地域産業をもりあげる	6	0	4	0	2
⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3	0	3	0	0
⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2	1	0	0	1
⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2	2	0	0	0
⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8	4	3	1	0
⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6	1	3	0	2
⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6	0	1	4	1
⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3	3	0	0	0
⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2	1	1	0	0
⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7	1	2	1	3
⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5	4	0	0	1
㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4	3	1	0	0
㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2	0	1	0	1
㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4	3	0	0	1
㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3	2	0	0	1
㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2	2	0	0	0
㉖高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5	3	0	0	2
㉗交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	5	3	0	0	2
㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3	2	0	1	0
合 計	115	53	25	11	26

第6次高島町総合計画 評価指標 (KPI) ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
1)-①-1		①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	乳幼児とのふれあい体験の実施回数(年間)	3回	-	1校(6回)	◎	健康子育て課	赤ちゃん先生ふれあい体験授業(高島中学校)出前授業(高島高校)	高島中学校3年生を対象にクラス毎にふれあい体験授業を実施した。また、高島高校と連携した思春期講話も実施できた。今後も継続実施していく。
1)-①-2			結婚推進関連事業への参加者数(年間)	200人	150人	49	×	企画課	高島町結婚推進支援事業	イベント開催数:3回 例年よりもイベント回数が減少した。女性の参加が課題となっている。
1)-①-3			高島町若者定住促進事業による支援件数(累計)	120件	74件	(R5)4件(累計)139件	◎	建設課	若者定住促進事業助成金	この助成金は他(国)補助金との併用ができないため、当然金額の高い他(国)補助金へと流れることが多く、正確な実績値とは言い難い。
1)-②-1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	子育て世代を受け入れできる地域の居場所の数	6か所	2か所	5か所	○	健康子育て課	一般介護予防事業	開設中のすべての居場所で子育て世代の利用も可能となっている。利用状況を確認し、実施団体と連携を図りながら子育て世代への周知を図る。
1)-②-1			妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	95%	83.30%	90.7%	○	健康子育て課	産前産後サポート事業	母子健康手帳交付時のパンフレット配布等を継続。出産や育児の見通しが立てられるよう、子育てガイドを用いながらサービスや制度等について周知していく。
1)-②-1			ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	90%	84.50%	74.2%	×	健康子育て課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	4か月児健診:93.5%、1歳6か月児健診:69.6%、3歳児健診:59.6%とゆとりを持った子育ては年齢が上がるにつれ低下している。早期から子どもの成長発達に関する情報提供等を行い、ゆとりある子育てや適切な対応ができるよう支援していく。
1)-②-2			産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受け取ることができたと回答した者の割合	95%	90.40%	96.3%	◎	健康子育て課	妊婦訪問、新生児・産婦訪問	産前産後の電話相談等から緊急性や必要性を判断し、支援を必要とする妊産婦等へ早い段階で支援を実施。今後も継続実施していく。
2)-③-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	子育てボランティア登録数	20人	0人	4人3団体	△	健康子育て課	屋内遊戯場での子育てボランティア活動	高校生1人一般3人団体3の登録あり、13回の活動があった。効果的な活躍の場を提供し、活動内容を広く知らせ募集していき、地域の子育て力を高めていく。
2)-③-1			学びと交流の場の数	2か所	1か所	2か所	◎	健康子育て課	サード(学びと交流の場)	開催回数:84回 参加児童の学年、人数:小学2年生~高校1年生、実19人、延404人 新規参加児童数:5人 支援員活動数:実42人、延239人 イベント開催回数:5回(うち、団体との連携による開催1回) 学習面の分からない所を自分から質問したり、調理実習でグループ毎に完成し、食事をするなど交流を楽しむ姿が見られた。また、一週間の子どもの生活リズムを作る場になっていた。今後も学習習慣や学力の定着につながるように保護者と課題を共有し、継続した関わりとなる支援を行っていく。
2)-③-2			3歳児でむし歯のない幼児の割合	80%	77.10%	91.5%	◎	健康子育て課	歯科健康相談・乳幼児健診	かかりつけ歯科医をもつ子どもも増えており、保護者の中にむし歯予防の意識が定着してきている。今後も定期的な歯科保健指導を行い子どものむし歯予防対策を継続していく。
2)-③-2			低出生体重児の割合	減少	11.20%	3.3%	◎	健康子育て課	母子健康手帳交付、ふぁみりー学級	妊娠中からの電話訪問や面談、ふぁみりー学級等の事業を通して妊婦および家族等に対し保健指導を継続していく。
2)-③-3			育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	95%	89%	86.1%	×	健康子育て課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会、ペアレントサポート講座	育てにくさを感じる親の割合は、4か月児健診:9.3%、1歳6か月児健診:17.6%、3歳児健診:33%と年齢が高くなるにつれて増加している。今後も育てにくさや育児の困り感に寄り添い、相談支援体制を充実していく。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
2)-④-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	病児保育施設との連携強化数	3か所	2か所	5か所	◎	健康子育て課	病児保育事業の実施	本町において病児保育施設まほろんがR5年3月に開所し、町内在住及び町内事業所へ勤務する者の児童を受け入れが本格稼働となった。それにより、置賜自立圏構想において、りんごのへや、すまいる(米沢市)、げんきルーム(川西町)、みつばちルーム(長井市)と5施設で連携を図っている。
2)-④-1			放課後児童クラブの定員数	372人	305人	340人	○	健康子育て課	高畠町放課後児童健全育成事業	和田地区の放課後児童クラブ「げんきクラブ」の施設老朽化が進んでいたため、同地区の元農協施設を整備し移転した。前年度に引き続き、各地区の学童利用の需要は維持から微増を続けている。今後も保育の必要性のある児童が十分に利用できる体制づくりのために、適切な施設環境の整備と支援員の確保に努めていきたい。
2)-④-1			3歳未満児の待機児童数	0人	0人	0人	◎	健康子育て課	待機児童数調査	年々就学前児童数が減少しているため、待機児童は発生しなかった。令和5年度当初は、町内児童施設3歳未満の定員278人に対し、213人の申し込みがあり、保育の確保ができた。年度途中での入所も多数あり、今年度の様子を見て、次年度の定員増減について検討する。
2)-④-1			積極的に育児に参加している父親の割合	70%	56.50%	71.5%	◎	健康子育て課	ふぁみりー学級	3年連続して目標値を達成している。ふぁみりー学級の実施や父子手帳の配布等を通し、さらに父親の育児参加を促進していく。
2)-④-2			資格取得等の支援による就労人数(累計)	5人	1人	(R5)0人 (累計)4人	○	健康子育て課	生活応援給付金	本事業に関する広報やチラシ等で周知を行い、支給対象(ひとり親)からの問い合わせもあった。しかし、修学に伴い離職になることで収入減への不安になる要因が聞かれ、申請には至らず。支給対象者の支援できる環境も必要ではあるが、今後も積極的に周知働きかけていきたい。
2)-④-2		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	子育てについて困る町のひとり親の割合	35.60%	45.60%	24.30%	◎	健康子育て課	ひとり親家庭等生活向上支援事業	ひとり親の困っていることとして「子育てについて」が最も多かった平成28年度45.6%以降、令和2年度は23.8%、令和5年度の調査では24.3%であった。ひとり親支援の継続によりほぼ横ばいであり、個別に細やかな対応を継続する。また、現状では最多の「経済的負担感」に対して支援の充実を図り、ひとり親の子育てと就業の両立、生活や心の安定を図っていく。
2)-⑤-1		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	医療的ケア児に関する協議の場の設置	設置	-	1回	◎	健康子育て課	置賜地域医療的ケア児支援連絡会	令和4年度に引き続き、置賜地域における医療的ケア児支援に係る現状と課題について関係機関間で協議が行われた。町自立支援協議会子ども部会では医療的ケア児に係る研修会を開催。今後も協議の場づくりに努めていく。(R6年度は町にケアプラン策定会議が設置され、検討が進められている)
2)-⑤-2	交流の場の開催回数(累計)		5回	-	(R5)10回 (累計)46回	◎	健康子育て課	育児講座	年間10回の育児講座を企画。親子で楽しむコンサートには39組の参加があった。子育て中の関心事としてことば、離乳食、睡眠等の講演、絵本や自然などへの関わり方としての親子講座、託児のある筆ペン絵文字、手作りおもちゃなど講座を行った。いずれも定員程度の参加が見られ、今後も子育て親子のニーズを探り企画していく。	

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
3)-⑥-1	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	自ら課題を解決しようとする子どもの割合	69%	66.05%	75.50%	◎	教育総務課	主体的・対話的な深い学びの推進	一人一台端末の導入により、今後ICTを活用した主体的な学びが定着しつつある。「教える」授業から児童生徒が自ら「学ぶ」授業への転換。
3)-⑥-2			自己を肯定できる子どもの割合	82%	80.90%	81.50%	○	教育総務課	道徳教育、いのちの教育	道徳の教科化により、道徳科の確実な実践が進んでいる。各校でのいのちの教育を推進し自尊感情の醸成を目指している。
3)-⑥-3			地域や社会をよくしたいと考える子どもの割合	57%	52.85%	83.50%	◎	教育総務課	地域教材を活用した授業	地域ボランティアによる学校支援が再開し、地域の方と関わる授業が行えるようになった。また、自らが関わり地域を変えようとする意識が強くなっている
3)-⑥-4			学校への地域人材の参加人数(年間)	増加	1,066人	898	×	社会教育課	各地区学校協働活動推進協議会活動	新型コロナウイルス感染拡大の影響が残り、ボランティア数の伸びが無かった。今後も、学校を核とした地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開し、地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに、地域コミュニティの活性化を図っていく。
3)-⑥-4			大規模改修対象校(4校)の改修進捗率	25%	-	-	△	教育総務課	小学校プールサイド改修工事・小学校図書室床改修工事	「高畠町立小学校のあり方について」の報告書や老朽度調査の結果により、統廃合も視野に入れ、再検討していく必要がある。
3)-⑦-1		⑦学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる	生涯学習講座への参加人数(年間)	維持	14,000人	12,042	×	社会教育課	地区づくり計画による講座・研修会等	コロナ禍後の事業内容の見直し等を図ってきたものの、コロナ前の状況には戻らなかった。
3)-⑦-1			図書館の利用者数(年間)	21,000人	16,100人	53,801	◎	社会教育課	イベント開催、読書案内と本の貸出、学習室の提供等	開催するイベントと連動した図書案内をおこなっており、本の貸出し冊数も伸びている。学習室の利用も増えてきているが、小中学生に対してなど苦情も増えており図書館の利用の仕方についてルールの周知が課題となっている。
3)-⑦-1			たかはた出前講座・町民講座の利用者数(年間) ※注意 令4 事業名称変更	維持	2,500人	1,256	×	社会教育課	たかはた出前講座(町民出前講座含む)	ニーズに合わせたメニュー、内容を検討すると共に、広報たかはた等を活用し周知と利用促進を図る。
3)-⑦-2			地域における学びの場の数	増加	127か所	127	△	社会教育課	自治公民館98館、社会教育関係施設21館、ほか8施設	自治公民館が1館なくなったため、実績が減少した。人口減少により今後も自治公民館の減少が予想されるが、世代交流・学びの場・体験活動の拠点として「場づくり」の充実を図っていく。
3)-⑦-3			地域の先生登録者数(地域人材バンク)	100人	-	11	×	社会教育課	町民出前講座(登録講師)	登録講師が1名増えたが、今後も、新たなメニューと若年層の講師確保に取り組む。
3)-⑧-1	⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	児童生徒に対する人権教育・福祉教育の実施回数(年間)	12回	7回	7回	△	統合	各小・中学校において人権教室を実施	人権について考える機会として、町内7校各1回以上実施する。(教育総務課)	
3)-⑧-2		支援者の資質向上のための研修実施回数(年間)(民生委員・児童委員研修会数)	維持	12回	52回	◎	統合	民児協研修会、視察研修、東置賜郡研修会、宿泊研修、月例会等	毎月の月例会において各支部ごとに研修会や視察などを実施、全体での研修会や外部研修会へ積極的に参加、主任児童委員については、施設訪問や視察、外部で主催する研修会に参加し資質向上に努めた。	
								老人福祉相談員定例会、民生委員児童委員協議会月例会・宿泊研修	相談員どうし、民生委員児童委員との情報共有を図り、高齢者の実態を把握することができた。継続して見守り・訪問活動を行い、適切な支援につないでいく。	
								人権擁護委員研修会	人権擁護委員の資質向上のための研修会を年1回以上開催する。	
教育相談員研修	定期開催のほか、上部研修への参加もできた									

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
4)-⑨-1	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	農業産出額	82億円	78.7億円	82.2	◎	農林課		
4)-⑨-1			若者の就農者数(年間)	維持	5人	6	◎	農林課	Uターン就農者2名、新規参加者4名	国や県による新規就農者支援事業の制度活用と農地の確保等について、関係機関や農業研修生受入協議会等と連携していく。
4)-⑨-1			町公式YouTubeチャンネル農業番組制作本数(累計)	20本	1本	(R5)1本 (累計)5本	○	農林課	有機農産物給食	農業への興味関心を高めるため、農業者が出演する動画を制作
4)-⑨-2		⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	製造品出荷額	7,044,349万円	5,789,941万円	5,057,923万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和4年の数値)原材料やエネルギー価格の高騰及び人手不足による厳しい経営環境が続いていることから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、事業の維持・発展を図るため、設備投資等の補助事業を継続していく。
4)-⑨-2			商業年間商品販売額	2,869,855万円	2,731,634万円	2,281,697万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和3年の数値)原材料やエネルギー価格の高騰及び人手不足による厳しい経営環境が続いていることから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、事業の維持・発展を図るため、設備投資等の補助事業を継続していく。
4)-⑩-1		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	製造業付加価値額	26,888百万円	22,100百万円	2,156,560万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和4年の数値)原材料やエネルギー価格の高騰により仕入価格が上がったものの、販売価格に全て転嫁することが難しく、さらに人手不足により減少したものと推測される。資金繰りや設備投資、事業の多角化、販路拡大などをサポートする事業を引き続き実施して製造業の振興を図っていく。
4)-⑩-2			農商工親連携事業の支援数(年間)	10事業	-	7事業	○	商工観光課	・JR仙台駅構内での高畠フェアの参加・栄区民祭りの参加・太陽館売店・道の駅・商工ブランド・総合観光推進協議会・たかはたブランド認証事業所協議会 海外プロモーション事業(JR東日本との連携)	4産業同時での事業展開、目標数値に満たない状況であるものの、産業毎の事業展開は活発であり、今後連携の協議を重ね、他面的な事業として目標値の達成に対応していきたい。 商工観光課主管による海外プロモーション事業
4)-⑩-2			町外企業との連携事業数	7事業	2事業	4事業所	○	商工観光課	・新事業活動推進サポート補助事業 ・地域企業団体交流事業	新型コロナ5類移行により社会経済活動の正常化が進みつつある中で、町外企業との連携に積極的に取り組み、販路拡大や新商品開発等に努めた。
4)-⑩-2			町内農畜産物の新規需要取引数	5	-	1	○	農林課	上和田有機米の立教大学学食採用	外部とのネットワークを活かした販売促進
4)-⑩-2			地産地消取り組み事業数	33事業	28事業	17事業	×	農林課	・食育・地産地消推進事業	コロナ禍前の水準まで戻らないものの、現行の取組を継続する。
4)-⑩-2	⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる		たかはたブランドの認証数	40商品	30商品	32商品	○	商工観光課	・たかはたブランド認証審査会 ・町内施設での商品展示	R5年度追加認証商品はなかったが、審査会において企業が新しく開発した商品を対象に、トライアル商品として出品し、商品のブラッシュアップを行った。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
5)-⑪-1	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	情報提供手段の増加	4ツール	1ツール	3ツール	○	商工観光課		現在、書面、ホームページ等での情報提供を行っているが、フェイスブック、メールマガジンなど情報提供手段を増やしていく。
5)-⑪-2			新規高等学校卒業求職者の県内への就職率	80.20%	74.60%	76.12%	○	商工観光課	町内企業説明会	近年の県内就職者は約7割で推移している。高畠町雇用対策協議会と連携し、企業の人事担当者や高校の進路指導担当とも情報を共有しながら、町内企業への興味関心を高めることができるような方策を実施していく(職業体験会、企業説明会、ガイドブック配布など)。
5)-⑪-2			職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数(年間)	280名	200名	255名	○	商工観光課	・職業体験	令和5年度はこれまで実施してきた高畠高校に加え、高畠中学校で職業体験会(WAKUWAKUWORK)を実施し、企業概要や仕事について知る機会を設けることができた。置賜地区雇用対策協議会が実施している職業体験会に町内企業が参加することで、周辺市町の高校に通う生徒にもアピールできるよう引き続き取り組んでいく。
5)-⑫-1		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	創業セミナーの受講者数(年間)	15人	15人	16人	◎	商工観光課	創業支援補助事業	これまで実施してきた商工会主催の創業セミナーに加え、CWSを活用して女性の創業応援セミナー及び起業・創業セミナーを実施。引き続き関係機関と連携して時勢に合ったテーマでのセミナー開催や補助金及び各種優遇制度の情報提供などを通じて起業・創業への関心を高めていきたい。
5)-⑫-2			町の支援により創業・起業した者(社)の数	18件	8件	2件	×	商工観光課	創業支援補助事業	創業セミナー参加者を対象とした開業経費等の補助事業を活用し、起業意欲の高い人材に必要な知識と資金を提供できるよう支援を継続していく。
6)-⑬-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)	維持	31回	53回	◎	農林課	<ul style="list-style-type: none"> ・植菌授業 3回 対象者:高畠小学校(4学年) 50名 1回、高畠中学校(部活動) 18名、高畠高校(2、3学年) 26名 1回 ・多面的機能支払交付金制度による生き物調査 6回 対象者: 97名 ・県、ステーションサンプルと町の協定に基づく絆の森事業 3回 対象者:41名 ・木工教室 4回 対象者:高小49名 糠小31名 もつくる4名 ・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高畠小学校) 2回 対象者:110名(4年生:60名、5年生:50名) 	新型コロナウイルス感染症予防対策の緩和により、高畠小学校の森林学習を始めとして様々な事業をコロナ禍前と同様の水準で実施しようとしたものの、コロナ禍前の状況までに戻すことはできなかった。今後は事業対象の拡大により、木育の幅広い推進を図るとともに、農業による自然体験を推進する。
6)-⑬-1			河川の水質調査							環境学習の主軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取組を続けていく。
6)-⑬-1			(再掲) 地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室							コロナ禍前の事業内容にほぼ戻すことが出来たが、積雪量が少なく、雪を活用した屋外事業が出来なかった。
6)-⑬-2			田舎暮らし体験者数(累計)	10人	-	26	◎	企画課	高畠町地域留学	都市圏大学生をメインターゲットとした移住体験事業の実施
6)-⑭-1		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	橋梁の老朽化対策実施数(累計)	18橋	5橋	(R5) 0橋 (累計) 14橋	○	建設課		老朽が著しく、通行に多大な支障がでる橋梁を現在繰越にて施工中。R6完成予定。
6)-⑭-1			都市公園リニューアル事業(遊具施設)実施数(累計)	3公園	1公園	3公園	◎	建設課		すべての都市公園にある遊具施設のリニューアルを完了した
6)-⑭-1			歩道整備総延長	45.245km	44.245km	45.474km	◎	建設課		町道深沼入生田線(歩道設置延長L=115.0m)の歩道工事を実施。今後も計画的に歩道設置工事を行う。
6)-⑭-1			水道管路の耐震化率	23%	20%	22.5%	○	上下水道課	高畠地区老朽管更新事業	高畠地区老朽管更新事業を中心に耐震管への更新を進め、令和4年度から耐震化率を0.5%向上することができたが、目標値は達成できなかった。引き続き老朽管の更新に取り組み、耐震化率の向上を目指す。
6)-⑭-2			高畠町住宅リフォーム支援事業による支援件数(年間)	50件	48件	52件	◎	建設課	住宅リフォーム支援事業助成金	予算の上限額により先着順であるため夏頃には終了となり、各方面より追加の要望も多い。県主導であるため内容の変更は困難であるが、見直し等が必要であると思われる。
6)-⑭-2			空き家利活用件数(年間)	10件	-	59件	◎	建設課	①危険空き家等除去事業補助金②空き家バンク補助金③住宅リフォーム支援事業助成金	実績数全てに左記の主な事業を活用した訳ではないが、居住(売買・賃貸)、解体等により新規空き家分と同等数利活用されている。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
6)-⑭-3	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	道路除排雪担い手確保件数	5件	0件	0件	△	建設課		委託料補償を実施し、除雪業者の費用負担を軽減している。
6)-⑭-3			除排雪活動に継続して取り組む集落数	29集落	14集落	26集落	○	福祉課	自治会への除排雪の支え合いのしくみづくり働きかけ、および活動助成	目標値には達しなかったが、社協の働きかけにより、自治会の自主的活動の取組みが増えてきている。除排雪の支え合い活動が継続できるように、地域住民への声かけを続けていく。
6)-⑮-1		⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	福祉防災マップ作製集落数	54集落	39集落	46集落	○	福祉課	自治会への地域支え合いマップづくり働きかけ、およびマップづくりの支援、活動助成	新規作成の件数は伸びなかったものの、多くの自治会でマップづくり活動を行うことができた。マップづくりの様子や活用例等を広報しながら、日常的な見守りや活動を推進していく。
6)-⑮-1			自主防災組織率	100%	81.10%	98.60%	○	総務課	地区自主防災組織連絡協議会活動 自主防災組織単位での講座・訓練	地区ごとの自主防災組織連絡協議会設立(R2)により組織化は着実に進んでいる。組織化していない集落についても、地区自主防災組織連絡協議会には加盟し、実質的に防災研修などには参加している。今後も組織化を進めつつ、防災減災の知識を普及し災害に強い地域づくりの担い手として活動する組織を目指す。
6)-⑮-1			消防団員数	785人	764人	626人	×	総務課	消防団組織活性化計画策定	少子化と人口減少の影響による担い手人口の減少の影響を免れることが難しいため、班の統廃合により団員定数を見直した。(807名→610名) 消防団員数が少ない中にあっても災害に対応できる資機材を整備し、併せて技術力の向上を図る必要がある。
6)-⑮-2			運転免許証自主返納者数(年間)	80人	63人	58人	×	町民課	交通安全協力団体との啓発活動	自主返納者数は昨年度に比べると減少した。今後も免許を返納しても暮らしやすいまちづくりを目指しながら、高齢者に対し免許返納を呼び掛ける啓発活動を行う。
6)-⑮-2			犯罪認知件数(年間)	45件	53件	46件	○	町民課	高島町防犯協会各支部による青色防犯パトロール等	コロナ禍後の行動多様化に伴い、件数が増加した。引き続き青色防犯パトロールを実施し、侵入窃盗等を防ぐための啓発活動に力を入れていく。
6)-⑮-2			交通事故(人身)の発生件数(年間)	85件	93件	30件	◎	町民課	各交通安全協力団体との啓発活動	町内の交通事故は大幅に減少している。低い水準を維持するため、積極的に啓発活動を実施していく。
7)-⑯-1	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	日頃から運動している人の割合	30%	23.86%		△	健康子育て課	健康マイレージ、健康運動講座、健康運動サポーター、出前講座	運動のきっかけづくりや継続のため講座を開催していく。
7)-⑯-1			喫煙者の割合	12%以下	24.50%		△	健康子育て課	卒煙相談	禁煙したい人が禁煙に取り組めるような支援を行うとともに防煙講座も併せて実施していく。
7)-⑯-1			健康に関心のある人の割合	50%	36.60%		△	健康子育て課	健康マイレージ、健康づくりの情報発信	広報等を活用し健康に関する情報をタイミングよく提供していく。
7)-⑯-1			地域活動に参加している人の割合	30%	26.90%		△	健康子育て課	健康運動サポーター、食生活改善推進員活動支援	地域活動の担い手の育成と、町民の身近で活動できる場所をつくっていく。
7)-⑯-2			自殺死亡率(人口10万対)	13.1以下	18.7	14.8	○	福祉課	ゲートキーパー養成講座・SOS出し方研修	ゲートキーパー養成講座 町職員 59名・傾聴ボランティア養成講座受講者37名 SOS出し方研修 高島高校2学年 41名
7)-⑯-3		後期高齢者医療の訪問診療利用者延べ人数(年間)	増加	3,804人	3,414	×	町民課	なし	訪問診療(在宅医療)利用者が目標値よりも減少している状況が続いている。後期高齢者医療被保険者は施設利用が多く、施設入所すると、医師や看護師が常駐している場合もあり、安心して医療サービスを受けることができる。令和5年度は前年度よりも在宅医療利用者が減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いたことにより、他人との接触を避けたいという考えが影響しているものと考えられる。後期高齢者医療被保険者数は前年度より増加したが、いわゆる「団塊の世代」の加入増加によるもので、訪問診療(在宅医療)の利用状況にはほぼ影響しないものと考えられる。 なお、訪問診療は医療機関での受診よりも医療費が高いため、訪問診療利用の減少は、保険者、被保険者双方の医療費負担が減る面もある。	
7)-⑰-1		⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	集落座談会を開催した集落数(累計)	55集落	40集落	(R5)5集落 (累計)59集落	◎	福祉課	地域支え合いマップ作成に併せた学集会・座談会の開催	地域支え合いマップ作成に併せて実施し、福祉課題を共有し話し合うための機会づくりを行うことができた。マップ作成時のみならず、様々な場面を通して話し合う機会づくりに努めていく。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
7)-⑰-2	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	ボランティアセンター登録者数	1,850人	1,751人	1,916人	◎	福祉課	ボランティアセンターの運営	居場所づくりなどの活動が広がりセンターへの登録者数が増加傾向にあったが、一部ボランティア団体の解散等により、登録者数が減少した。今後は、新たなボランティアの発掘・養成を目指して講座等を企画していく。
7)-⑰-3			地域の居場所の数(累計)	9か所	6か所	10か所	◎	健康子育て課	子どもの居場所づくり運営支援事業 子ども食堂等物価高騰対策支援事業 若者の居場所づくり運営支援事業	子どもや若者の居場所づくりへの取組が地域で充実・拡大していくことを目的とした事業を実施し、町内開設箇所10箇所を維持。また、物価高騰等による居場所運営への影響が懸念されたため物価高騰対策支援事業を実施。今後も子ども・若者の居場所が確保され、充実していくよう支援していく。 ※子ども食堂・子どもの居場所4か所、学習支援2か所、若者の居場所4か所
8)-⑱-1	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	地域の茶の間の開設数(累計)	6か所	4か所	5か所	○	福祉課	既存団体の継続支援、未設置地区への働きかけ	参加者にとっては、交流、健康づくりや楽しみ、お互いの見守りの場になっているが、参加者の固定化、スタッフの高齢化、移動手段などの課題がある。新規参加者を得るためのPRを強化するとともに、活動内容の充実を図る。また、未設置地区への働きかけも引き続き行っていく。
8)-⑱-2			住民主体の介護予防の場	35か所	24か所	56か所	◎	福祉課	既存団体の継続支援と未設置集落への働きかけ	生活支援コーディネーターの働きかけにより、2か所で新たに100歳体操が取り入れられたが、中止する集落もあった。参加者及び担い手ともに無理なく継続できるよう、また、引き続き新たな参加者及び担い手の確保につながるような環境づくりや、活動内容の見直しについて支援していく必要がある。
8)-⑲-1			集落のサロン数	50か所	34か所	80か所	◎	福祉課	既存団体の継続支援と未設置集落への働きかけ	心身機能の維持向上や介護予防だけでなく、参加者間の見守りや高齢者の孤立防止につながっており、活動費の一部助成や運営に関する相談支援と、未設置集落への働きかけを継続して行う。 また、担い手を対象とした交流会を実施し、サロンに役立つ講座や研修会なども行いながら、情報交換・交流を図ることでよりよい活動の支援を行っていく。
8)-⑲-1			買い物、通院、除雪支援を行う住民主体の団体	6団体	1団体	1団体	△	福祉課	既存団体の継続支援と新たな仕組みづくりに向けた話し合い	既存の除雪ボランティア団体1団体の継続支援を行っている。また、令和5年度は「助け合い・支え合いの地域づくり会議」が開催され、各地域における課題とその解決に向けた取り組みについて話し合い、共助の意識の醸成が図られた。今後は具体的な支え合い活動組織の立ち上げに向け、地域の実状にあった体制づくりと側面からの支援について取り組んでいく必要がある。
8)-⑲-2			在宅療養(看取り)の普及啓発事業開催回数(年間)	2回	2回	0回	×	福祉課		在宅医療介護連携に係わる専門職の感染防止の観点から広く町民対象の在宅療養(看取り等)の講座等の普及啓発体制が整わず実施することができなかった。今後は、町民の関心を高めるための普及啓発体制を整えていくこととする
8)-⑲-2			認知症サポーター数(累計)	3,000人	2,303人	(R5) 98人 (累計) 2,834人	○	福祉課	認知症サポーター養成講座 年間8回実施	継続して養成講座を開催し、認知症について理解し地域の中で支援する町民を増やす。また、サポーターの活動支援について展開していく。周知用チラシを作成し、小中学校や町内企業等へ幅広く受講を呼び掛けている。
8)-⑲-2			見守りネットワーク協力機関数	70か所	65か所	66か所	○	福祉課	R5年度の実績なし	認知症サポーター養成講座と合わせてチラシ作成し、周知と協力機関への登録依頼を継続して行っていく。
8)-⑲-3			介護者研修会(交流会)参加者数(年間)	60人	47人	24人	×	福祉課	家族介護者交流会	日帰り交流会を2回実施した。家族の介護から一時的に離れ、心身のリフレッシュだけでなく、介護者同士の交流により、介護に関する情報交換や悩みを分かち合う機会となることから、今後も継続実施していく。
8)-⑲-3			認知症カフェの利用者数(年間)	400人	347人	220人	×	福祉課	町内2か所で延べ21回開催	R5年度に町内2か所のカフェを再開した。頻度は少なかったが新規の利用者も増えている。認知症本人や家族の参加がないため、今後も継続的に総合相談などで情報提供を行っていく。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など	
9)-⑳-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	食農教育の実践学校数	維持	7校	7	◎	教育総務課			
			自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)再掲	維持	31回	53回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> ・植菌授業 3回 対象者:高島小学校(4学年) 50名 1回、高島中学校(部活動) 18名、高島高校(2、3学年) 26名 1回 ・多面的機能支払交付金制度による生き物調査 6回 対象者: 97名 ・県、ステーションサンプルと町の協定に基づく絆の森事業 3回 対象者:41名 ・木工教室 4回 対象者:高小49名 糠小31名 もつくる4名 ・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高島小学校) 2回 対象者:110名(4年生:60名、5年生:50名) 	新型コロナウイルス感染症予防対策の緩和により、高島小学校の森林学習を始めとして様々な事業をコロナ禍前と同様の水準で実施しようとしたものの、コロナ禍前の状況までに戻すことはできなかった。今後は事業対象の拡大により、木育の幅広い推進を図るとともに、農業による自然体験を推進する。	
										環境学習の軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取組を続けていく。	
									地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室	コロナ禍前の事業内容にほぼ戻すことが出来たが、積雪量が少なく、雪を活用した屋外事業が出来なかった。	
9)-⑳-2			有機・特別栽培水田面積	維持	712ha	641	×	農林課	有機農業産地づくり推進事業	新たな生産者の育成に向けた事業の実施	
9)-⑳-2			耕作放棄地面積	130ha	141ha	128.3ha	◎	農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・町荒廃農地等利活用促進事業 ・農地パトロール 	町補助事業による荒廃農地の再生整備及び、農地集積・集約化等に伴う新たな遊休農地発生防止によるもの。今後も継続して事業を推進していく。	
9)-⑳-2			屋代川の水質調査	2mg/L以下	1.2mg/L	0.6	◎	町民課	河川の水質調査	目標達成できている	
9)-㉑-1			㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	COOL CHOICE賛同者・企業数(累計)	1,100人・60団体	954人・40団体	1,052人・45団体	○	企画課		令和5年度途中に、脱炭素につながる国民運動が、COOL CHOICEからデコ活に変わったため、啓発活動を中断した。
9)-㉑-2		公共施設の温室効果ガス排出量(年間)		5,258t -CO2	5,779t -CO2	3,740t -CO2	◎	企画課	公共施設13施設で、非化石証書付き電力の供給を実施	非化石証書付きの電力供給を実施したことにより、排出量が大幅にオフセットされた。さらなる排出量削減に向け、電気使用量自体の削減に取り組んでいく。	
9)-㉑-2		再生可能エネルギー導入容量(固定価格買取制度適用分)		9,200Kw	8,694Kw	9,346Kw	◎	企画課	再生可能エネルギー設備導入事業費補助金	再生可能エネルギー設備導入に対し、補助金を交付し支援を行うことで導入の促進を図ることができたため、継続して取り組んでいく。	
9)-㉑-3		最終処分廃棄物量		700t/年	766t/年	700	◎	町民課	置広での可燃物焼却灰埋立、不燃物処分	小型家電回収事業や生ごみ処理機購入への助成などを実施し、目標達成に向け取り組んでいる。災害などでも増減はあるため、見直しは不明。今後も減量化事業を継続していく。	
9)-㉒-1		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	歴史文化学習会の開催数(年間)	45回	42回	44	○	社会教育課	考古資料館体験教室、古文書講座	体験教室の参加者はコロナ前に戻りつつある。引き続き文化施設、関係機関と協力し、事業を実施していく。今後は新しい体験メニューを考案するなどの工夫が必要。	
9)-㉒-2	文化遺産の活用事業数(年間)		5事業	2事業	1	×	社会教育課	歴史公園夜間ライトアップ、ナイトミュージアム	歴史公園夜間ライトアップに合わせて、郷土資料館ナイトミュージアムを開催した。引き続き文化施設と協力し、事業を実施していく。		
9)-㉓-1		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	40歳未満の若者を対象とした町・地区事業の実施回数(年間)	増加	94回	138	◎	社会教育課	各地区の青少年講座・成人一般講座の回数	回数を増やす事より内容の充実を図るため、若者が必要としている事業等の情報を収集し、ニーズに合った事業を検討する。	
9)-㉓-1	中高生や若者によるまちづくり企画の支援回数(累計)		40回	-	(R5)79件(累計)112件	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> ・青年団体連絡会 ・国内研修(まちの新人研修) ・若者地域育成事業 東大FS、外大ST、リーダー経営人財育成塾	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式実行委員会を対象に「まちの新人研修」を実施し地域を知るための機会を提供していく。 ・地区づくり推進事業等により若者の自主的な取り組みを支援していく 地方からの若者流出と地方活性化を課題に設定し、首都圏学生の受入事業を展開している。R5年度は特に高島高校の入学者数の激減を最重要課題とし、高校魅力化を図るため、東大FSを軸に高島高校生と活動を進めてきた。高島中学校との連携も強化し、また、リーダー経営人財育成塾の卒業生との教育事業等に対する支援体制も構築し、町の強みを活かした教育環境が充実してきている。今後、県外入学者も見据え、受入環境の整備を進めていく。 東大FS(現地活動 3回、東京研修 1回、高島ゼミ 44回) 外大ST(夏学期 1回、冬学期 1回) 外大 学院生 3回、九里学園FW 3回		

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-㉓-2		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	若者活動団体による若者を対象とした事業・活動の実施回数及び参加者数(年間)	増加	14回・520人	4回・36人	×	社会教育課	高島町高校生ボランティアサークル地球、国内研修(まちの新人研修)	自主的、自発的な活動を促し、事業が継続できるよう支援していく。
9)-㉓-2			若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数	5事業	-	8事業	◎		高島町高校生ボランティアサークル地球	携わる中高生の活動を支援し、事業を継続していく。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。
9)-㉓-2									高島高校高島ゼミ、高島中学校探求学習支援、東大FS、外大ST、リーダー経営人財育成塾、九里学園FW	R5年度は、高島中学校や高島高校の探求学習の支援に、リーダー経営人財育成塾の卒業生が関わり、学生たちの将来の夢や目標達成に向けた懇談会(プレゼン発表やインタビュー等)を開催した。
9)-㉔-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数(累計)	100回	27回	165回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> ・7/15 防災の視点での地域福祉の推進のため関係課と連携しセミナーを実施した。参加者186名 ・地域づくりワークショップ(助け合い・支え合いの地域づくり会議) 8/25(高島・糠野目)、8/26(二井宿・屋代)、8/27(亀岡・和田) 2/26(和田)、2/29(二井宿・糠野目)、3/1(高島・亀岡)、3/2(屋代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・7/15 防災の視点での地域福祉の推進のため関係課と連携しセミナーを実施した。参加者186名 ・地域づくりワークショップ(助け合い・支え合いの地域づくり会議) 8/25(高島・糠野目)、8/26(二井宿・屋代)、8/27(亀岡・和田) 2/26(和田)、2/29(二井宿・糠野目)、3/1(高島・亀岡)、3/2(屋代)
									農とびあ実行委員会事業5回	今後も企画を検討していく。
									高島高校高島ゼミ、高島中学校探求学習支援、東大FS、外大ST、リーダー経営人財育成塾、九里学園FW	東大FS及び外大STにおいて、地域活性化や魅力発信のワークショップを現地活動・オンライン授業を合計50回実施した。また、町内企業や個人事業者の次世代経営者を対象にした、リーダー経営人財育成事業を開催し、講座・メンタリング等を年間合計18回実施した。東大FS52回 外大ST 14回 人材育成 18回、高中4回、九里3回、人財育成18回 計91回
									人材養成事業中高生海外(シングルトン)派遣事業	シングルトンの海外派遣研修を再開した。町の新人研修2回実施した。
9)-㉔-2		㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	財政力指数	0.387%	0.387%	0.395	◎	財政課		
9)-㉔-2		㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	派遣研修受講職員の延べ人数	120人	110人	81名	×	総務課		専門分野派遣(28名)、県研修所(38名)、置研協(15名) 延べ81名
10)-㉕-1	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	ふるさと名物応援宣言による地域ブランド商品サービスの開発件数	5件	-	396件	◎	商工観光課	ふるさと納税事業(返礼品開発)	ふるさと名物応援宣言の取り組みからふるさと納税返礼品の開発に方針を切り替え、町内企業、個人事業者(農業者含む)から地域資源の発掘や磨き上げ、定期便の開発に取り組んだ。令和5年の実績として、新たに396件の返礼品を登録し、ふるさと納税の仕組みを活用し、全国へプロモーションを行った。今後も魅力ある返礼品の拡充を図っていく。

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-25-2	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	26高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	首都圏プロモーションの実施回数(年間)	10回	5回	28回	◎	商工観光課	JR仙台駅たかはたフェア、海外プロモーション事業(台湾)	毎年開催しているJR仙台駅たかはたフェアでは、過去最高の売り上げを記録(7,659,820円)した。 また、海外プロモーション事業では、ホテルメトロポリタンプレミアム台北において、インバウンド観光セミナーや特産品を活用したデザートやカクテルの提供、高畠現地取材、インバウンド商品の造成、台湾メディアでの情報発信など、対面でのプロモーション活動に取り組むことができた。 各事業合計数 6回、海外プロモーション事業におけるSNSや紙媒体による情報発信回数 22回
10)-26-1			町内宿泊者数(年間)	34,372人	29,372人	18,362人	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスが5類に移行し、激減した観光客数・宿泊者数も少しずつ戻りつつあると思われたが、結果的に遠方も含めた分散傾向となったか、宿泊者数総数としては前年度よりも少ない状況となった。イベント開催もコロナ禍前の状態に戻ったため、引き続き、観光資源の発掘及び磨き上げや、高畠ならではの新たな観光プログラムをつくり、誘客を図ってきたい。
10)-26-1			外国人宿泊者数(年間)	5,000人	484人	912人	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスが5類に移行し、激減した観光客数・宿泊者数も少しずつ戻りつつあると思われたが、結果的に遠方も含めた分散傾向となった。外国人観光客としては団体旅行での通過型が多いため、観光で宿泊者数を伸ばすことはなかなか困難である。現在の宿泊者数の大半は企業訪問関係者である。観光で宿泊者数を伸ばすには、今後は魅力ある滞在型メニューづくりから宿泊へ繋げていく取り組みが必要であることから、インバウンド受入れ体制整備や魅力的なルートづくりに取り組んでいく。
10)-26-2			町公式ホームページ観光サイトの閲覧数	10,000回	-	11,415	◎	企画課	町公式ホームページ観光サイト令和5年度閲覧数	8月～10月のイベントが多い時期に閲覧数増。
10)-26-2			町の魅力発信ワークショップ参加者数	120名	-	253名	◎	商工観光課	高畠高校高畠ゼミ、高畠中学校探求学習支援、東大FS、外大ST、リーダー経営人財育成塾、九里学園FW	R5年度は、高畠中学校や高畠高校の探求学習の支援に、リーダー経営人財育成塾の卒業生が関わり、学生たちの将来の夢や目標達成に向けた懇談会(プレゼン発表やインタビュー等)を開催した。 高畠中学1学年185名、高畠ゼミ12名、東大FS5名、外大ST15名、九里25名、リーダー経営人財育成塾11名
10)-26-2		町公式YouTubeチャンネル再生回数	100,000回	17,761回	163,142	◎	企画課	町公式YouTubeチャンネル再生回数(累計)	新規動画を74本公開。協力隊作成動画や新庁舎建設工事の動画等、例年より多くの動画を公開しており累計再生回数が伸びたと思われる。チャンネル登録者数も増。	
10)-27-1		27交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	町内農業体験者数(年間)	700人	513人	304	×	農林課	・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験者数、屋代村塾、修学旅行受入れ数	新型コロナの影響で大学ゼミの受け入れが停止していたものの、5類移行により回復を見込む。
10)-27-1	熱中小学校プロジェクトによる交流人口(年間)		2,500人	2,281人	1,895	×	企画課	熱中小学校プロジェクト	令和4年度実績(1,364人)からは改善したものの、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン形式の導入等により、来校者数は「現状値」より減少している。	

No.	めざす町の姿	基本目標	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R5末実績	進捗状況	担当課	R5 指標の主な事業	R5 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-⑦-2			県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数(累計)	10件	6件	(R5)11件 (累計)44件	◎	統合	福祉のまちづくり推進委員会の委員に立教大学コミュニティ福祉学部の西田教授に依頼。	今後も立教大学と連携していく。
									京王プラザホテルラ・フランス事業	今後も企画を検討していく。
									JR仙台駅(JR東日本東北本部)、横浜市栄区、東大FS、外大ST、東京都江戸川区、墨田区、宮城県村田町	コロナが5類に移行し、徐々にイベント等も回復している。オンラインで交流を続けてきた大学も対面での交流へと戻り、新たに横浜市立大学との交流事業が実施されることとなった。また、海外プロモーション事業においては、JR東日本本社との連携事業へ発展し、3年間の事業計画を立て実施しているため、県外との関係事業は拡大傾向にある。
10)-⑦-3		⑦交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	都市部で主催する交流事業の参加者数(年間)	100人	50人	100人	◎	統合	たかはた墨田交流事業・人材養成事業中高生海外(シングルTON)派遣事業	たかはた墨田区交流事業は実施出来なかったが、中高生海外派遣事業は、4年ぶりに再開することが出来た。
									東京まほろば会での参加者数 横浜市栄区区民祭りの参加者数(関係者)	コロナが5類に移行し、都市部での催事も例年通りの開催となった。まほろば会や横浜市栄区などにおいては、会報等を通じて情報発信を行いながら、多くの方々の集客が出来た。継続して取り組んでいきたい。
10)-⑦-3	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている		ふるさと納税の申込延べ人数(年間)	2,500件	1,509件	25,396件	◎	商工観光課	ふるさと納税事業	R5寄附金額 429,715,588円(前年比 123%) 令和5年度は、9社のふるさと納税ポータルサイトを運用しながら、WEBマーケティング分析を基にした効率的なWEB広告の活用、また新たな返礼品の開発、返礼品取扱事業者の拡大を進め、目標金額達成に向けて取り組んだ。目標金額には達することができなかったが、昨対比123%の429,715,588円の寄附受入金額となった。また、昨年の制度改革に伴い、10月以後の申込みについては寄附金額を増額対応としたことで、年末にかけての申し込みが昨対比87%と低迷した。しかし、年明け2月以降、昨対比を超える申込みとなり、新規顧客に加え、リピーター獲得の対策を行った効果が表れてきた。次年度は委託料等の経費の見直しを進めながら、寄附額拡大に取り組んでいく。
10)-⑩-1		⑩移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	移住相談(問い合わせ)件数(年間)	100件	8件	110件	◎	統合	窓口、電話、イベントでの相談件数 ・新規就農オンライン相談会、新農業人フェアほか 対応人数 32名	イベントの現地参加の増加を図る。 新規就農による移住者の受け入れを促進していく。
10)-⑩-2			空き家バンク成約数(町外の方の累計)	50件	1件	(R5)0件 (累計)1件	△	建設課	空き家バンク補助金	R6.2より、空き家バンクHP及び運用形態を見直したため次年度に期待する。 ※R5は1件実績があったが町内の方であるため0件
10)-⑩-3			移住者支援事業の開催回数(年間)	3件	0件	6件	◎	統合	デュアルスクール受入事業 農とびあ交流会 ①移住相談会:くらすべ山形 移住交流フェア1回、 新農業人フェア1回 ②移住体験:高島町地域留学2回	昨年度から移住定住推進事業として受入準備を和田小学校及び二井宿小学校と進め、今年度、長崎県諫早市のご家族から申込みがあり、送り先の教育委員会及び小学校と調整を行い、「体験入学」として和田小学校での受入れが実現した。デュアルスクール受入としては東北初となる事例となり、多くのメディア(TV、新聞、WEBニュース等)でも取り上げられた。次年度は、二井宿小学校の受入れの実現と複数家庭の受入れのため、引き続き町内教育機関及び受入施設との調整を進める。 受入人数 3名(長崎県諫早市) 新規就農者と先輩農家等とのネットワークづくりもねらい継続実施を検討。 ①山形県等との共同での開催に参加したもの。 ②地方創生推進交付金を活用し、熱中小学校事務局が主催する形式として開催したもの(学生を中心に26名が参加)